

防災学ぶゲームが大賞

寒い時は新聞紙を体に巻けば暖かい、お皿はラップを敷いて使えば洗わずに済む。身の回りの物をうまく使い、災害時の避難所生活を乗り切る知恵を学んでもらおうと、岐阜薬科大(岐阜市大学西)薬学部6年の藤井嵩将さん(26)が作ったカードゲーム「避難所サバイバル」が、優れた防災グッズを表彰する一般社団法人災害防止研究所(東京)の「防災グッズ大賞2024」で大賞に輝いた。藤井さんは「子どもたちに楽しみながら防災を学んでほしい」と話す。(中根真依)

避難所サバイバルは、トーが「トップサバイバー」ランプと同じ54枚のカードになる。

長野県松本市出身の藤井さんは、同県で2014年に起きた御嶽山噴火災害をきっかけに災害医療に興味をもった。岐阜薬科大に進学後、16年の熊本地震について調べたところ、避難所生活で健康を害して亡くなる「災害関連死」の多さに衝撃を受けた。

内閣府が公表する災害関連死事例集を読むと、体の冷えやほこりを吸ったことが死につながったケースがあった。「こういうことが

岐阜薬科大生・藤井さんが製作

危ないと知っていれば、身近なものでも対策できたはず。防げたはずの死を減らすためにできることを分かりやすく発信したいと、昨年4月、カードゲームの製作を始めた。

こだわったのは親子や3世代で遊びながら学べること。日用品のカードには

「段ボールをしくと床が寒くない!」などとトラブル時の使い方に関する説明文を添えているが、文章は極力短くしてルビを入れ、子どもでも意味がぱっと分かるようにした。放課後児童クラブや防災教室で試しにプレーしてもらって改良を重ね、印刷会社に発注。11月に自作のオンラインショップで販売を始めた。

プレーした子どもたちは防災知識を次々に覚えていくという。「もつー回!」とはまってくれることが何よりうれしい」と話す藤井さん。ただ、カードゲームは防災を学ぶきっかけの一つだと考えている。

「日用品を使うのはあくまでも最終手段なので、防災バッグの用意を。カードゲームを通じて防災を学ぶのは楽しいことだと思ってもらい、そこからさらに知識を深めてしっかり備えてほしい」

価格は1セット1500円(税込み)。現在は品切れだが、新装版の購入予約をウェブサイトで受け付けており、今月中に順次発送を始める。サイトは「避難所サバイバル」で検索し、予約は「購入はこちら」から。

今回で6回目となる防災グッズ大賞には全国の企業などから18件の応募があり、最高の大賞には避難所サバイバルを含めて2件が選ばれた。

災害関連死の多さに触発



避難所トラブル 手持ちの品で対処できる?

「避難所サバイバルが防災を学ぶきっかけになれば」と話す藤井さん(岐阜市で防災知識を盛り込んだ「避難所サバイバル」のカード)